

遙かなる時の中で

「2年生のみなさんへ」
増刊号

本日の格言

時間だけは神様が平等に与えて下さった。これをいかに有効に使うかはその人の才覚であり、うまく利用した人がこの世の中の成功者なんだ。 ——— 本田宗一郎

自分に合った勉強方法を探して①

誰にでも得意・不得意があると思います。今回は、先生たちが若かりし頃を思い出し、「得意」を生かした勉強方法や、「不得意」を克服した勉強方法などを紹介していきます。少しでも皆さんの学習のヒントになれば幸いです。まずはこちらをご覧ください。

視覚優位者

写真で記憶する カメラタイプ



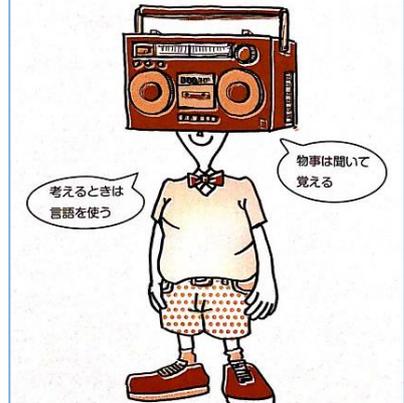
言語優位者

右脳と左脳のバランスがよい ファンタジータイプ



聴覚優位者

言語で思考する ラジオタイプ



時間と空間を操る 3Dタイプ



言葉を見るのがうまい 辞書タイプ

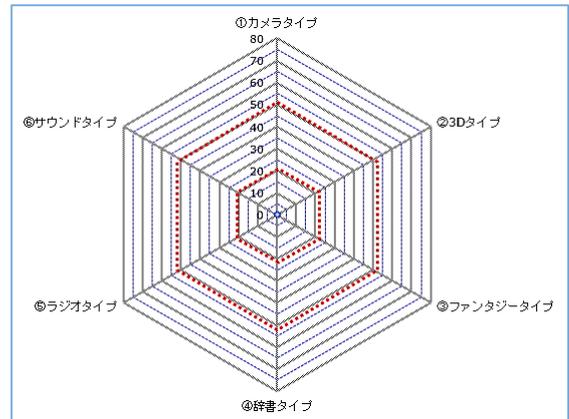


音で情報処理ができる サウンドタイプ



これは「認知特性」の6つのパターンです。認知特性とは、頭に入ってくる情報を脳がどのように処理しているかの特性のことで、人によって全然違います。脳科学という学問はまだ未解明の部分が多い分野なのですが、今回はあえてこの認知特性の分類を基に話を進めていきます。きっとそれぞれの先生の勉強方法の特徴を、分かりやすく描き出すことができると思います。

なお、6つのパターンについての説明を以下に簡単に書いておきますが、紙幅の都合上、あまり詳しく書くことができません。もっと知りたい人はインターネットで「本田40式認知特性テスト」と検索してください。また、エクセル環境さえあれば40個の簡単な質問に答えるだけで自分の診断もできますから、試してみるのもよいと思います。右の図のような六角形のグラフで、各認知特性の得意・不得意が表示されます。



○ カメラタイプ

一度見たことを写真のような映像の記憶として残すことができます。アニメのキャラクターなどの絵を、何も見ずに思い出しながらかくことができ、画家やデザイナーにも向いているタイプです。

○ 3Dタイプ

カメラタイプと同じ視覚優位者ですが、写真ではなく動画のように記憶しています。自分の見た風景を、順序よく時間を追うように説明できるのが特徴です。

○ ファンタジータイプ

イメージをすぐに言葉にできます。言語を映像化することも、逆に映像を言語化することも得意です。感覚と論理的思考をバランスよく使うことができるタイプといえます。

○ 辞書タイプ

言語に含まれる抽象的な概念をよく理解することができます。文字の扱いや図式化が得意で、一言で言うと、分かりやすくノートをまとめる達人です。英単語などを何度も書いて覚える人が多いです。

○ ラジオタイプ

視覚優位者が芸術や空間認知力に長けた右脳派とすれば、ラジオタイプは言語をつかさどる左脳派です。耳から入る情報をよく覚えており、声という聴覚情報のみで話の内容を理解できるのが特徴です。

○ サウンドタイプ

音階や音色といった、言語的な意味を持たない情報であっても、イメージとして脳内で処理できます。CMソングや映画で一度聞いただけの曲を口ずさむことができます。

出典：『医師のつくった「頭のよさ」テスト ～認知特性から見た6つのパターン～』（光文社新書）

この診断を先生たちも試してみました。「なるほど～、当たっているな」と思うことも多くあり、自分たちが中学生や高校生だった頃の勉強方法について振り返ることができました。次回から3回連続で、それぞれの先生のエピソードと、そこから得られる教訓を掲載していきます。いつも仲良く仕事をしている先生たちですが、人によって認知特性にはかなり違いが表れたので面白かったです。ただ、違いはあれど、全員が自分なりの方法で努力を積み重ねてきたという点にも注目してほしいと思います（人生そう甘いもんじゃないのヨ）。それでは、お楽しみに！